

北海道スキー部が初めての夏季スキー講習

6月13日 JR北海道スキー部(岡本秀男監督)が旭岳クロスカントリースキー練習コースでスキー教室を開きました。

夏見円(31)、石田正子(30)、野上幸寿(28)の3選手が旭川市内の神居東中、神楽中、旭川農業高校のスキー部員のほか、鷹栖、当麻、士別、和寒の7中学校約30人のノルディックスキー部員を指導しました。



今年旭岳は例年になく残雪が豊富で林道に約400メートルの練習コースを作りました。講習は、クラシカル走法に欠かせない「ダイヤゴナル」(交互にポールを出して前進する)「ダブルポール」(左右同時にポールを出して進む)の2つの基本技術。

「腰が脚の真上に乗るように」「ひじを前に大きく出し、両肩を交互に大きく振って体をうまく使う」など一人ひとりに細かく指導しました。「体をうまく使うことで乳酸がたまりにくくなり、疲れも少ない」とコツを伝授し、「少しの練習でずいぶんうまくなつた」と覚えの早さに感心しきり。岡本監督は「今日のイメージを次の冬シーズンまで大切に温めてほしい」と生徒を激励しました。

岡本監督は「この時期でもスキーを滑れる練習コースが国内にある、ということをも日本スキー連盟、日本オリンピック協会にアピールしたい」と絶賛していました。

東川小で移転改築の説明会開く

6月9日、東川小で同小の移転改築の構想を話し合う保護者説明会が開かれました。同小の移転改築と同時に、同一敷地内に建設予定の子育て活動支援センター(仮称)構想について、岡村裕司教育長が現段階の検討の進み具合を保護者らに説明しました。



この日は約40人が集まりました。今後の計画進行の流れ、移転先として幼児センター北側を候補地として考えていることなど説明を受けました。

町は7月にも「東川小学校等建設推進委員会」(仮称)を設置し、同委で構想具体化に向けた視察やワークショップ

成、授業開始の計画です。終了後、保護者同士の話し合いでは、登下校時の交通安全問題を中心に、候補地への移転に反対の意見もありました。この日の話し合い結果で出た要望は、今後まとめて町教委に提出するという予定です。

安全誓って建設業協会安全大会、交通安全町民大会

5月28日、農村環境改善センターで東川建設業協会安全大会、交通安全町民大会がそれぞれ行われました。

建設業協会(藤田裕三会長)の安全大会には町内各社から約150人が出席しました。吉村直起旭川労働基準監督署長が労災事故撲滅への心構えなどを講話。NTT東日本旭川支店の清水一夫第二カスタマーサービス課長が通信

ケープルの事故防止について話しました。引き続き行われた交通安全町民大会は約300人が出席。伊藤節夫旭川東警察署交通担当次長が無事故への取り組みと心構えを話しました。

会場では東川第二小、



横山せれなさんと、東川中学生徒会生活委員長の猪股日菜子さんがそれぞれ交通安全の願いを訴え、北町2丁目町内会の大澤聰さんが死亡事故ゼロ交通安全宣言をして無事故を訴えました。